学長の言葉

PRESIDENT'S MESSAGE

有意義で価値ある学生生活を

学長　福元裕二

新入生のみなさん、西九州大学短期大学部への入学おめでとうございます。

本学に入学されたみなさんは、これから始まる学生生活や、環境の変化に多少の不安を感じておられることと思いますが、どうか一日も早く新しい環境に慣れ、自分自身の生活スタイルを確立して、落ち着いて勉学に打ち込めるよう努めてください。

ここ西九州大学佐賀キャンパスでは、短期大学部2学科の学生と四年制大学子ども学部の学生が共に学ぶことになります。お互いに切磋琢磨しながら力を合わせてそれぞれの個性、能力を伸ばして建学の精神にある高い志を実現させてください。

大学は、自ら学び自ら考えるところです。したがって、みなさんが何を勉強し、どのような学生生活をおくるかはすべてみなさんの自主性に任されています。これから、それぞれの学科、コースで種々の免許や資格の取得を目指して努力されることになりますが、そこで展開されている授業科目をよく考え自分の能力に合わせて選択してください。このキャンパスライフハンドブックには、すべての開講科目がそれぞれ学科別、資格・免許別に分類され紹介されていますので常日頃から取得した授業科目や単位数をチェックして間違いの無いようにしておくことが極めて重要です。

その他にも、みなさんが有意義な学生生活をおくることができるよう諸事項についても詳細に説明されていますので、いつも手元において気軽に目を通し、確認をしながら、悔いのない２年間を過ごすための道標にしてください。

本学のある佐賀キャンパスは、四季おりおりの変化に恵まれた自然豊かな環境です。このキャンパスにおいては、就学前の子ども達から小学生、中高生、地域の社会人の方、高齢者の方々、附属幼稚園・保育園の園児達など、多くの人達がここに集うようなプログラムをみなさんとともに知恵を絞って創造し、実施していくことを切に望んでいます。昼夜を問わず沢山の外部の方々が出入りして、このキャンパスをみんなが楽しく学びあい高めあう場に育てていくことが私の夢でもあります。学ぶことへの意欲や学ぶことの楽しさ、相手を思いやる心を地域の方々とともにここで培ってください。学内で誰かと顔を合わせたら誰に対しても礼儀正しく元気に挨拶をし、笑顔でコミュニケーションを図ってください。

みなさん方は今、二度と返らない貴重な時間を本学で過ごそうとしてその出発点に立っています。この大事な２年間を勉学と同時に、スポーツ、サークル活動、ボランティア活動、旅行などいろいろな体験を通して人間の幅を広げるとともに、一生つき合える友を得ることができるよう、有意義なキャンパスライフにしてほしいと心より願っています。

私たち教職員も、みなさんが明るく充実した学生生活をおくることができるように全力で支援し、しっかりと見守っていきます。今後の健闘を祈っています。

建学の精神

高度の知識を授け、人間性の高揚を図り、
専門知識と応用技術をもって社会に貢献し、
世界文化の向上と人類福祉に寄与する
人物を養成する。

学園の伝統と教育経験から得た「あすなろう」を基本精神として、学園全体が一丸となって、真理の探究と人間性との調和に努める。

教育の理念

教育の理念「あすなろう」

あすなろ（翌檜）とは「明日はひのきになろう」の意。学生が自らの可能性を信じ、自らの力によって、その持てる才能を開花させ、将来の大きな目標に向かって突き進む姿勢を、永原学園は全力で導いています。常に前向きに、ひたむきに向上する、努力精励の精神が創立者の理念として貫かれているのです。

地域大学の理念

◆地域大学の理念・目的

【理念】 西九州大学および西九州大学短期大学部は、教育・研究の地域志向化を通して地域の課題を解決することをめざします。そのために、両校は、開学以来の健康と福祉の理念を発展的に受け継ぎ、「地域に生活する人々への様々なかたちでの支援（生活支援）」を科学し、実践する高等教育機関として、全学的な教育、研究ならびにそれに基づく地域連携・貢献活動を展開していきます。ひとことで表わせば「地域に学び、地域とともに歩み、発展する高等教育機関」をめざしているのです。ここでいう地域とは、佐賀のみならず県域を越えた九州、さらにはアジアを中心とする世界に開かれた地域です。また、そこでの活動とは、グローバルな視点から地域を俯瞰し、世界と日本をつなぐグローカルな連携活動を意味しています。

【目的】 西九州大学および西九州大学短期大学部は、グローカルな視点をもって地域活性化に寄与することのできる専門職業人を養成することを人材育成の目的としています。

◆グローカル化の目標

「あすなろう精神」に裏打ちされた人間力を備え、「つながる社会」を志向し、地域と世界とを横断するグローカル人材を育成するために、

①母校愛、郷土愛の涵養

②自国文化の理解、異文化の理解・受容

③グローバルな文脈から地域を俯瞰し、地域を志向し活動できる資質・能力の涵養を行います。

◆教育の目標

地域を理解し、諸課題に対して主体的に取組む姿勢をもつ、地域志向専門職業人を育成するために、

①地域志向教育の体系化

②地域課題を解決に導く実践的研究に基づいた教育活動の推進

③入試制度の抜本的改革

④教育·学修内容の公開

⑤学生の学習意欲を喚起し、主体的学修態度を涵養する教育形態（アクティブラーニング）の常態化

⑥学修成果の可視化など、学修評価システムの整備に基づいた学修PDCAサイクルの確立

⑦教育に関する大学資源の選択と集中

を行います。

◆研究の目標

生活支援科学の視点から地域社会の未来を切り開き、佐賀、九州そしてアジアの諸地域の課題を解決へ導く独創的かつ実践的研究を推進するために、

①少子高齢·人口減少社会を生き抜く新しい価値観·社会システムの創成

②地域社会への大学の保有する研究成果·人材·施設等の積極的提供

③地域課題を解決に導く実践的研究の推進

④教育·研究への学生および地域人材の積極的参画

⑤研究に関する大学資源の集中と選択

⑥アジア諸国との教育·研究活動の内容や方法、実践事例等の情報の共有

を行います。

◆地域連携·貢献活動の目標

地域志向大学像を革新する新しい大学の仕組みを創成し、地域連携·貢献活動を進展させるために、

①専門職現場をはじめとする地域社会との多元的·重層的関係性の構築

②地域再生·活性化に資する教育研究活動への積極的転換

③社会に対する説明責任の徹底化

を行います。

[理念作成に至る背景説明と用語の解説]

西九州大学の「地域大学宣言」にもとづき、その理念を作成しました。

作成にあたり、西九州大学グループ創立100周年の節目に当たる2046年を展望して大学のあるべき姿を想定し、大学が担う諸活動面での目標を示しています。

・グローカル化・・・・

グローバル(global)とローカル(local)の2つの言葉の合成語(glocal)。
世界的な視点から地域を俯瞰し、地域視点に基づいて世界と日本をつなぐ活動を意味しています。俗にいう、「地球規模で考えながら、自分の地域で活動する。」(Think globally, act locally.)とも関連する言葉。

・つながる社会・・・・

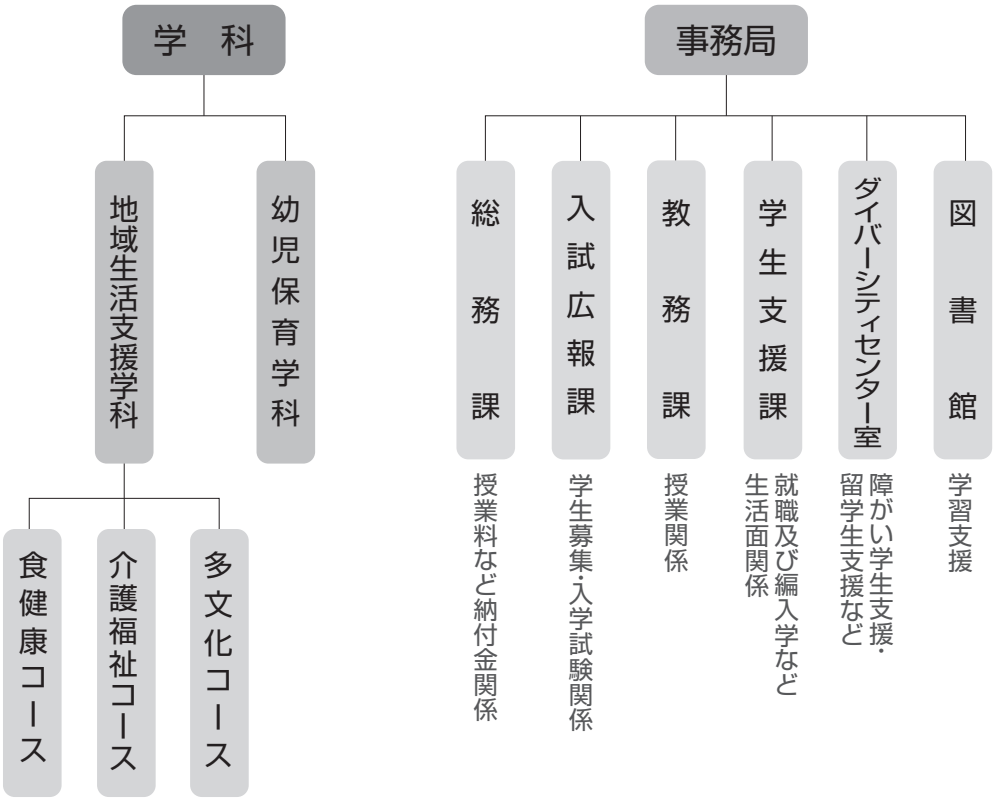
これから30年後、社会は組織間で人やモノ、様々な価値が相互往来する時代がさらに進んでおり、それには有限な人的･社会的資源を連続的にそして効率的に活用できる社会の創出をめざす必要があります。それを、私たちは「つながる社会(ネットワーク社会)の創出」と呼んでいます。そのような中、西九州大学･同短期大学部は、「地域とつながり、地域とともに生き、世界へつながる大学」を通して、つながる社会の実現をめざしたいと思います。

・アクティブラーニング・・・・

「能動的な学修」のことで、授業者が一方的に学生に知識伝達をする講義スタイルではなく、ディスカッションやプレゼンテーションなど、学生の能動的な学修を取り込んだ授業の総称。
アクティブラーニング型教育とは学生の学習意欲を喚起(刺激)する教授法のこと。

大学の組織図

みなさんは、まず、学生として学業面や課外生活全般に必要とされる大学の組織、機構等のしくみを一日も早く理解され、スムーズに学生生活をスタートされるようお願いいたします。



CHECK! 事務局の窓口(5号館1階)はP.157学内配置図を参照